

□議員名：吉永美子

## 1 子どもの読書活動推進について

論点	本市の子ども読書活動推進計画に、学校での本との出会いの拡大を具体的な取り組みとして掲げ進めてきたが、その進捗状況を聞く。
回答	機会の充実、環境の整備、理解の促進に向けての取り組みを進めている。市内全小中学校を結んだ学校図書館管理システムの構築を進めており、12月12日から運用開始予定である。これにより、学校間の図書の貸借を容易に行うことができるようになる。

論点	教育長が効果を認める学校図書支援員の配置について、今年から夏休みに出勤がない状況であるが、支援員の活用への認識を聞く。
回答	財政を預かる側として、十分理解できていなかったということもある。図書支援員の業務に対する理解を深め、支援員が児童の読書活動に、あるいは図書との近づくにどれほどの役割を果たしているかということについて、もう一回勉強しなおすことを検討する。

論点	せめて学校に1つしかない図書室には空調設備を設置し、良い環境で読書できるようにしてほしいが、その必要性についてどう思うか。
回答	学校において教室が第一である。図書館をどういう順番で整備していくのかということもあるが、必要性については、医学的見地からの助言もいただきながら、ただ単に快適か不快適かという基準だけでなく考えていきたい。

## 2 ガラス文化の発信について

論点	貴重なガラス文化の発信力がまだまだ弱い状況にあることは否めない。本市のガラス文化を県内外に発信するための具体策を聞く。
回答	平成27年に第6回現代ガラス展を開催するが、合併10周年の年でもあり、山陽小野田市をPRする絶好の機会と考える。まちづくり、観光のツールの1つとしての活用を図り、市内、県外へのガラスのまち山陽小野田が認知されるよう取り組んでいく。

論点	中央図書館に眠っている作品を文化会館の周りの暗い県道と市道に展示し、防犯灯的な役割とともに、もっと活用すべきではないか。
回答	新幹線厚狭駅の乗降客が少なく、まず増やすことから考えるのが先である。もっとよそから来てほしい。市政を運営していく上でどう観光事業を位置づけたらいいのか、観光懇話会というのを設置して、熱心な議論をしていただいている。

### 3 防災士の育成事業について

論点	長年主張してきた防災士育成事業が本年やっとスタートし、高く評価しているが、防災士認定後の活用について聞く。
回答	地域での防災意識の啓発、防災訓練などの防災活動への支援をする存在として期待している。特に、災害発生直後においては、公助には限界があり、共助が非常に重要となるので、防災士の皆さんにも共助の意識啓発に御協力いただきたいと考えている。

論点	学校での防災教育を行う助けをする存在として、防災士を活用すべきと思うが、教育委員会としての考えを聞く。
回答	先週、防災士協会の初総会が開かれて、名実ともにスタートしたわけであり、防災教育にぜひ力を貸していただきたいという思いは同じである。本年度より子ども市民教育を始めており、そのことも視野に入れ、防災士協会と連携を図りながら進めていきたいと考える。

### 4 定住促進について

論点	本市では、基本計画改定版に新たに定住促進を掲げ、婚活支援事業を行っているが、その成果と今後の予定について聞く。
回答	10月14日に第1回目を実施した。婚活というよりも若者の交流の場を広く提供することを目的に開催し、おおむね好評であったと感じている。12月15日に第2回目の交流会を実施する予定で、その後は月1回程度の開催ができるように準備を進めていきたい。

論点	「すまいイキイキ情報提供事業」の反省に基づき、空き家バンク制度を立ち上げ定住を促進すべきと思うが、考えを聞く。
回答	空き家バンク事業の必要性は、市長としても痛感しており、市がこうした事業を導入することについて、全く同意見で賛成だ。やるべきだと思っている。ただ、ちょっとつまずきがあって、その後遺症みたいなものが今まだある。